

空木岳

【日程】 2017年9月25日～26日

【エリア】 中央アルプス

【形態】 ハイキング

【メンバー】 K岡 I籐 M本 Y尾

【報告】 Y尾

《ルート／タイム》

9月25日

林道登山口（10：40）～林道終点駐車場（11：05/11：10）～池小屋水場（12：55）～
空木平分岐（17：05/17：15）～駒峰避難小屋（18：55） 行動時間約8時間

9月26日

小屋発（7：00）～空木岳（7：15/8：00）～小屋発（8：40）～林道登山口（13：40）
行動時間約6時間40分

《報告》

9月25日

中央アルプスで未踏破の部分 空木岳から南駒が岳に行く ということで計画された。
中央駒ヶ根 IC を下り、駒ヶ根高原スキー場を通過、林道終点まで車を走らせる予定だった。

途中 8/13 ～ 3/22 まで工事中ということで、スキー場まで行くことができなかった。道に迷って、駒ヶ根高原別荘地に入り込む。そこで、インターの近くまで戻り、こぶしの湯を通過、迂回して、迂回して、やっと目指す林道の終点に到着。3, 4 台の車が止まっていた。平日ゆえ、車が少ないと思った。迷った割には予定より早く出発できた。駐車場標高 1226m から空木岳山頂直下にある駒峰ヒュッテ 2800m を目指す。最初の登りがきつかった。

やっと最初の分岐に出た。たくさんの車が止まっていた。ここが林道終点だ、と気がついた。どおりで、腹スレスレをハラハラしながら車を走らせ林道終点に到着と誰かがネットに書いていた。そのような心配はさらさら無かった。仕切り直しである。徐々にコースタイムより遅れがち。というのは目指すヒュッテには管理人さんが不在かも、ということで、食料、水 3.5l、ガス、シュラフ、シュラフカバー、等等が入っているザックを担ぐと、肩にズシント重さがかかる。約 1 時間毎に休憩を取る。池山小屋分岐に水場があった。

やっと 6 年前の記憶が戻ってきた。ここで、乾いたのどを潤したことを。水があったんだ。しかし、ここまで持ってきた水を、捨てるのはもったいない。のどを潤しただけで、出発。マセナギに到着。さらに歩くこと 2 時間程、おそらくここが大地獄、小地獄といわれるところだろう、やせ尾根が続く。岩場、鎖場が続く。重い荷物、疲れた体には堪える。

慎重に、慎重に登っていく。水を捨てたい。しかしそんな事はできない。途中で、数人の縦走者とすれ違う。空木岳ピストンの 2 人連れの方が、まだ随分あるよ。でもヒュッテの冷たいビールはおいしかった。と言葉をかけてくれた。ということは、水を買うことができたんだ。しかし、ここまで運んできたのだ。冷えたビールを楽しみに頑張ろうと、気合を入れ直した。不安定な階段、梯子、岩を疲れきった足ではあるが、気をつけて登っていく。40 分ほどで、危険な場所を通過することができた。と同時にやっと空木平分岐に到着。夕暮れではあるが、まだ明るかった。紅葉が進み、今回初めて美しい紅葉の景色を目にすることができた。やはり日本はすばらしい。時が来れば木々が色付き、疲れを癒してくれる。もう少しもう少しと懸命に登っていく。いつしか空には月が輝いていた。6 年前に泊まった避難小屋が下の方に見えた。

ヘッドライトを出そう。まだ岩場がある。M が叫んだ。「灯かり見えた。小屋の」しかしその灯かりは木の上の月だった。K に続いた。18 時 55 分小屋に到着。夕食に冷えたビールで乾杯の予定だったが、そのことを口にする者は誰もいなかった。それほど、疲労困憊していた。夕食後就寝。明日は、空木に登って、下山と決めた。

(往路予定時間を大幅に遅れ、明日早朝に出発しても南駒が岳往復、その後往路を下山する予定。昨日のペースから考えると、下山途中で日が暮れる恐れがある、と判断)
夜外に出た。満天の星。明日も快晴だ。



(このヒュッテは駒ヶ根市を拠点とする駒嶺山岳会の会員が管理、運営しているようだ)

9月26日

早立ちの人達が準備を始める。4 時前頃から階下はザワついていた。5 時 40 分ご来光がみえます、と小屋番さんが起こしてくれた。朝食を済ませて、下山予定だったので、まだシュラフの中だった。その声を合図におき、小屋を出た。アツという間に太陽が昇った。

凜とする光景だった。小屋に戻り朝食。大きな窓から空木の姿を見ながらの朝食は格別だった。外のウッドデッキからはアルプスの山並みを望むことができた。下山の準備を整え、空身で山頂を目指した。花崗岩が点在する山頂からは中央は勿論、北、南アルプスの山並みを独占することができた。山全体が秋色に染まるのはもうすぐだろうな、と思いながら、惜しみながらの下山だった。復路は快調だった。どんどん足が前へ前へと進む。「100m 先、やせ尾根注意」の看板、その危険な場所を 30 分足らずで通過することができた。池山小屋分岐の水場に着いたとき、地元の方に出会った。りんごの生産地を訪ね、購入することにした。下山、こぶしの湯で汗を流し、明治亭でソースカツ丼を食し、りんごを買って帰宅の途に着いた。